

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(2020年8月18日～8月24日)

2020年8月25日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ルカシェンコ大統領、プーチン露大統領と電話会談(8/24)
- ミンスク市内で10万人以上が参加したとされる抗議運動「新たなベラルーシの行進」が実施(8/23)
- カラニク前保健大臣をグロドノ州知事に任命(8/22)
- マケイ外務大臣、EU各国外相に対する声明を公表(8/21)
- 政権移行調整評議会、第一回会議開催、幹部会メンバー選出(8/19)

【ルカシェンコ大統領動静】

●プーチン露大統領と電話会談(8/24)

両者は、ベラルーシ国内外、特に西側方面の状況に関し協議した。また、両者は、新型コロナウイルス対策に関し協議し、ベラルーシ国民が自発的な形でロシア製新型コロナウイルスワクチンの第三段階の臨床試験に参加することで合意した。また、ベラルーシが、同ワクチンが供給される初めての国となる。

(8/24 大統領公式ホームページ)

●ピニエヴィチ保健次官を保健大臣代行に任命(8/24)

(8/24 大統領公式ホームページ)

●カルペンコ教育大臣と会談(8/24)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・如何なる時にも勉強する必要がある。新学年の始まりは、しわくちやになってはならない。我々は、新型コロナウイルスと、それに対する警戒心の中で学年を終えた。新学年は非常に活発に始める必要がある。
- ・子供達が、親の所得に関係なく平等に通学できるようにしてほしい。貧困な家庭、子供の多い家庭を助ける必要がある。
- ・農業、産業の企業が、児童の修学の準備に対する支援を実施している。数千人が街をうろつき、状況を自分の方向へ持って行こうとしているが、リュックサックを集め、制服を購入し、お金を配っている企業もある。
- ・ベラルーシは国家教育があり、国家の学校があり、

国家のイデオロギーがある。この原則に従いたいものは、教鞭を執ってください、学んでください、そして働いてください。原則に従いたくない者は学校にいないべきでない。

(8/24 大統領公式ホームページ)

●カラニク前保健大臣をグロドノ州知事に任命(8/22)

(8/22 大統領公式ホームページ)

●グロドノ州議員と会談(8/22)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・グロドノとミンスクは、どの地域にも増して情勢を不安定にしようとしている2つの地点である。グロドノについては、半日の視察を通じて、何の悲劇もないと確信した。グロドノは、西の前衛である。我々がここに立っていないければ、ベラルーシの主権と独立を失う第一歩となっていただろう。
- ・(何者かが)国の内部から壊し、驚かそうとしている。また、国外からは公然と脅している。あなた方も、西側諸国の首脳陣の口からその脅しを聞いたことがある。公然と、資金供与を公表しているが、外交においてよくあることではない。
- ・ベラルーシ国境近くに、NATO軍が近づいている。F-16軍用機が、ベラルーシ国境から15分～20分の場所にいる。我々は、昨年、NATOが演習を公表した際に、この事態を理解していたが、新型コロナウイルスによって、演習が遅れた。今、彼らの視点でベラルーシ情勢が不安定と分かった時、彼らは積極的な行動に転換し、全部隊を展開した。そのため、完全な臨

戦態勢を整える他なかった。

・カラニク現保健大臣をグロドノ州知事に任命する。
私にとっては(同大臣を手放すことは)大きな損失である。彼は、新型コロナウィルスパンデミックにおける英雄である。彼がいなければ、非常に辛かったであろう。

(8/22 大統領公式ホームページ)

●グロドノ市で大統領支持の集会に出席、演説(8/22)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・私はあなた方と共にいる。あなた方の国を放棄することはない。あなた方も土地を守り、誰にも譲らないようにしてください。この国は、子供達のものである。

・今日、私がいなかったらどうなっていたらうか。誰が、西側に軍隊を派兵できたであろうか。国防大臣は誰に対して報告できたであろうか。破壊され、細かく刻まれ、捨てられていただろう。

・今日、我々は不和と憎しみの深淵に追い込まれている。西側国境では、武器をかき集め、我々を脅し、公然と干渉している。任期中、私は世界中を巡り、様々な人々と出会ってきた。カラー革命を経験した多くの人々も見したが、彼らはまだ苦労している。

・ベラルーシを扇動している者は、ヴィリニユスやワルシャワに座っている。彼らが住む国の当局から支援を得ている。

・ベラルーシ国内の問題には秩序がある。どんな場合であっても、民族間の諍いを許容してはならない。また言語面でも、ロシア語の漸進的な破壊をし、言語の問題を起こしてはならない。人々が話したい言語で話すべきである。

・土曜日、日曜日は、熟考の時である。月曜日以降、(厳しい措置を取っても)気を悪くしないでほしい。権力は、権力であるべきなのだ。我々は脅かし、悪影響を及ぼす人々に対する対策を策定した。

(8/22 大統領公式ホームページ)

●グロドノ州演習場視察(8/22)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・我々が予想した通り、内政を刺激し、カラー革命の計画通りに進んでいる。外的要因が伴っている点は、特徴的である。通常、国内で拡大し、政権を転覆するが、我が国では政権はその場に根ざし、激しく抵抗し、状況を管理している。そこで外的要因が加わったのである。

・反対勢力は、ベラルーシ軍や治安当局を分散させようとしている。国内の状況から目をそらさせ、国境に注力させようとしている。西側諸国は、ベラルーシに代替となる大統領を担ぎ出し、財務支援に関する表明を浴びせる。軍事支援も明らかであり、NATO 軍は国境近くまで移動している。

・国防大臣には、ベラルーシにとって西の真珠であるグロドノを守るよう要請する。

(8/22 大統領公式ホームページ)

●ミンスク州ゼルジンスキー農業コンビナートを視察(8/21)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

・本農業コンビナートには、4 千人が勤務しているが、誰もストライキをしようとしていない。ストライキしても、鶏や牛を育てることはできない。

・このような農業コンビナートは、農業分野における牽引役でなくてはならない。

・穀物収穫については、既に 91%の作業が完了しており、収穫高は約 7.5 百万トンに到達したと聞いた。その後、適切なタイミングで種まきを行う必要がある。

(8/21 大統領公式ホームページ)

●力の省庁、治安当局との会談(8/21)

ベラルーシ国内の状況を協議し、外部からの侵攻も含めた多様なシナリオにおける行動計画を喫緊の課題とした。

(8/21 大統領公式ホームページ)

●内閣承認(8/19)

6/4 以降、代行機能していた内閣を正式承認した。

(8/19 大統領公式ホームページ)

●地方首長も参加した国家安全保障会議(8/19)

ルカシエンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・軍人の家族や警官、特殊部隊、国家公務員、メディア従業員に対する脅迫が常に継続していることは、懸念を引き起こす、基本的な脅威である。政府のメンバーに対してさえ、攻撃が加えられている。あなた方は、カラニク保健大臣に対する抗議デモ者の行為を見たであろう。工場の作業員、企業の経営陣に対する脅威や攻撃も我々を心配させている。彼らは、攻撃的な人々のいる通路を通して出退勤している。まるでゲシュタポである。
- ・ベラルーシの状況を協議している西側諸国の首脳には、自国の問題に目を向けて欲しい。西側諸国は隠すことなく、(抗議運動参加者への)資金集めと送金を実施している。西側諸国の首脳は我々に交渉や対話を提案している。我々はこれを理解するが、受け入れることはない。
- ・彼らには、ぜひ、私の発言を聞いて欲しい。今日か明日、EU において、外相レベルか、首脳レベルでの会議が予定されているが、私は、彼らに、我々の内政に干渉する前に、彼らの問題、例えば、フランスの黄色ベスト運動や、米国における恐ろしい無秩序の問題を議題に入れるべきと助言する。また、ドイツやその他欧州諸国における新型コロナウィルス対策としてのロックダウンに対する反対デモについて協議してほしい。
- ・私は、彼らにも問題が山積みであると示唆している。フランス、米国、ドイツ、その他の国における問題から注意を逸らすために、ベラルーシに干渉する必要はない。
- ・ネット上に「ベラルーシ国内に外国の軍隊がいる。」、「ロシア軍の車両がある。」というフェイクニュースが拡散されている。これは私が数日前に、国家の主権と独立を維持し、西側国境を守るため追加で行った配置転換であり、ベラルーシ軍である。ベラルーシに外国の軍隊は一切無い。
- ・政権移行のためのいわゆる「黒百人組(注: 20 世紀ロシアに存在した極右集団)」、「反対勢力本部」がある。驚くべきことに、既に列になって、大臣職の割り振

- りを行っている。私は、「黒百人組よ、我が国にそんな列になるほど大臣職はない、シャベルとほうきはあるし、我々が確保しておく。」と伝えたい。政権奪取のための政府代替機関の設立は、法律によって罰される。
- ・政権は決して孤立していない。昨日、現政権を支持する人々による集会が実施され、約 10 万人が参加した。もし誰か、政権が傾いている、揺らいでいると思っているのであれば、それは間違いである。政権には頼れる人がいる。それゆえ、我々が恐れおののくことはない。自らの道を進むのみである。
- ・外国で駒を削っているもの(国内のデモ参加者を操る者の意)は、深刻な反撃に遭うであろう。これは事実無根ではない。既にグロドノではポーランドの国旗が掲げられている。これは受け入れがたいことである。
- ・変化は、法律の枠組みに従ってなされるべきである。全ての変化は、憲法に規定されるべきである。この作業は継続している。改憲の採択の速度は、どれだけ国民に支持されるかにかかっている。そして、この憲法に沿って、政権の再選挙の議論ができるようになる。
- ・国家国境委員会に、他国からベラルーシに、戦闘員、武器、資金が流入しないようベラルーシの全周囲における国境の警備を強化するよう要請する。
- ・国防省に、ポーランド、リトアニアにおける NATO 軍の移動に特別な注意を割くよう要請する。我々は、NATO 軍の移動方向と目論見を注意深く追うべきである。現状、我々はその目論見を見ている。特段、我々を警戒させるものではないが、特にグロドノ方面では我々が熟考せざるを得ない個別の事実がある。
- ・内務省に、国内、特にミンスクにおける無秩序を許容しないよう要請する。ミンスクでは、これ以上の無秩序はあってはならない。人々は疲れ果て、平和と静けさを求めている。また、工場や企業、マスメディアにおける従業員を街頭の脅威から守るよう要請する。
- ・国家保安委員会には、通りの無秩序を実施する首謀者の行動を発見し、阻止すること、そして、無秩序者の資金調達のルートを解明するよう要請する。
- ・外務省に、西側諸国首脳に対しベラルーシ国内の状況を伝えるよう要請する。メルケル独首相、マクロン仏大統領、ドゥダ・ポーランド大統領、ナウセダ・リト

アニア大統領、ゼレンスキー・ウクライナ大統領等にベラルーシで何が起きているのか、我々の公式見解を知ってもらうために、国内の状況を説明する必要がある。そして、無秩序を煽ったことへの責任を警告するように。無秩序に対する資金提供は、煽動である。我々は、今日もその資金提供が継続していることを見ている。

- ・そして、ベラルーシ国境においてキャタピラーの音を鳴らすことは逆効果であると伝えて欲しい。彼らは、有事の際に責任を取る必要があると理解すべきである。

- ・マスメディアに、黒百人組による「独立主権国家、ベラルーシの破壊への深淵の道」プログラムについて説明し、警告するよう要請する。彼らは、歴史的な兄弟国、ロシアやロシア国民と衝突するよう仕向けている。これは許容してはいけない。

- ・政府には、企業が途切れることなく機能するための政府指令の実現と管理を要請する。企業経営陣と政府による作業が非常に多いが、良い結果もある。しかし、気を緩めてはならない。

(8/19 大統領公式ホームページ)

●国家安全保障会議(8/18)

ルカシェンコ大統領の発言要旨は以下の通り。

- ・ベラルーシ国内だけでなく、国外、とりわけ、ベラルーシ国境における状況について協議したい。8月16日の国防省戦略管理センターにおける会議に決定した事項(空挺軍配置転換等)に関し、事態を緊張化させると述べた国民もいるが、17日夜の出来事(ミンスク始め国内で数十万規模のデモが発生したこと)を鑑み、正しい反応であったと確信している。

- ・西側諸国を、ベラルーシがどこにあるか、何が起きているかを知らない各国の首脳による(ベラルーシ情勢に関する懸念の)表明が続いている。これらの表明は、国防省で協議した際、私が正しかったと証明している。我々は、反応し、部隊を展開し、臨戦態勢を整えた。

- ・国内の秩序維持のため、部隊が活用されることを残念に思う。しかし、外部要因が、状況を考慮し、然る

べき方法で対処するよう強制している。つまり、国内だけでなく、国外にも問題が発生しており、それらは調整された行為である。しかし、これはまだピークではなく、さらに発展していくものである。

- ・政権、とりわけ力の省庁を寝かしつけようとする試みがある。「我々は平和であり、対立を求めている。」と述べているが、これはごまかしである。

- ・政権移行のための反対勢力の本部(移行調整評議会)が設立された。彼らは我々をぞんざいに扱い、政権の譲渡を要求している。我々は、これを政権の篡奪と見做す。彼らに、我々は、憲法と法律に基づいた然るべき施策を実施すると警告する。

- ・移行調整評議会のプログラムには、連合国家や、ユーラシア経済同盟、ロシアが主導する、その他統合組織からの脱退とある。いずれの組織でもロシアが主導するということではなく、全ての加盟国が平等の票を有する。

- ・続いて、同評議会は、ロシアとの間の国境・関税管理の実施を提案している。つまり、ロシアとベラルーシに国境を設定するというものである。

- ・次に、ベラルーシのインフラのロシア企業への販売の禁止である。ロシア企業への販売がだめなのであれば、どの企業であれば販売できるのか。無論、西側である。私は、ベラルーシのインフラをどの国の企業にも販売するつもりはない。

- ・国家管理からのマスメディアの解放について、国家がメディアを管理することは悪いことである。移行調整評議会が設立されたら、移行調整評議会がメディアを管理するだろう。ウクライナやその他の国でも起きたことである。また、彼らは、ラトビア、リトアニア、ポーランド、ウクライナの番組放映を提案する一方で、ロシア番組の放映を禁止すると言っている。コメントすらできない。

- ・軍事分野でいえば、集団安全保障条約からの脱退や、ベラルーシ国内のロシア軍事基地の閉鎖を提案している。私からすれば、それら軍事基地が我々を脅かしているように思えない。そもそも、軍事基地というステータスではない(早期警戒レーダー施設と通信施設)。また、そこで勤務する者の90%がベラルーシ国

民である。彼らはそこで給料を貰っている。仮に、反露路線でいけば、1年で我々の武器はがらくたになるだろう。

・ロシア語の漸進的な禁止について、ベラルーシ語の侮辱に対する刑事罰を導入すると言っているが、我々は一度も母国の言語を侮辱したことはない。移行調整評議会は、軍のベラルーシ語化や、2030年までに幼稚園から大学までの教育をベラルーシ語で実施すると提案している。我々は、過去、ロシア語とベラルーシ語を公用語として使用すると決定し、この問題について前進することはないと合意をした。好きな言葉で話せば良い。オーストリアではドイツ語が使用されているが、何の問題もない。

・また移行調整評議会のプログラムには、モスクワ総主教ベラルーシ総主教代理に対するベラルーシ正教協会の優越性復活が入っている。我々は、多宗教国家であり、誰も信教を妨げることはない。正教徒も、カトリックも、ムスリムも、ユダヤ人も住んでいる。我々は、宗教間の戦争に嵌まろうとしている。

・EUやNATOの加盟について、ウクライナでは約10年前に民主主義制度を受け入れたが、NATOも、EUも同国を受け入れていない。誰も待っていないのである。我々なんてなおさら待っていないであろう。

(8/18 大統領公式ホームページ)

外交

●チハノフスカヤ候補、ビーガン米国務副長官と会談(8/24)

チハノフスカヤ候補は、平和的な権力移行に関する対話によって危機を解決する用意を表明した。

(8/24 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣、EU 各国外相に対する声明を公表(8/21)

声明の概要は以下の通り。

・我々は、全ての点でアプローチが常に一致しているわけでは決してない。しかし、国家形成における最初の深刻な試練において、あなた方は再び即座に制裁を呼びかけている。これは、貴国との平等かつ全員

に利益のある関係を形成する主権的能力を信じない者が正しいと確認することになる。

・これは、我々の歴史において初の制裁ではない。我々の歴史は、これで終わることはない。我々は以前の制裁と同様にぐり抜けるであろう。この制裁の結果は分かっているであろう。全員が時間を失うだけである。そして、この変化の速い現代社会において、我々の国や社会に必要なリズムを失う。

・我々は、非常に困難な状況にある。しかし、あなた方の中に、痛みを伴う国家成熟の段階を通過していない国があるか。我々にもその段階を通過させて欲しい。あなた方の支援を得て、しかし政治、金融、その他の梃子を活用して強制する試みはなしで良い。恐縮だが、我々には、ベラルーシの主権に害をもたらす悪意にしか見えず、対抗措置を取らずにはいられない。

・私は、正常かつ善隣的で、文明的な国家間関係の可能性と展望を信じている。なぜならば、それは、ベラルーシ、欧州、全てのユーラシア、そして全員にとって、利益があるからである。感情抜きでこれを検討して欲しい。

(8/21 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣、ラブロフ露外務大臣と電話会談

両者は、大統領選後のベラルーシ国内情勢や西側諸国の反応、集団安全保障条約における相互協力について意見交換した。

(8/21 ベラパン通信)

●コチャノヴァ上院議長、アンドレイチェンコ会員議長、EU 各国議会に書簡送付。(8/21)

書簡の概要は以下の通り。

・8月9日に大統領選挙が実施された。その結果、ルカシェンコ氏が大統領に選出された。選挙はベラルーシの憲法と法律に従って実施された。絶対的多数の国民が、個人と、彼らの繁栄と安全を優先する、強い独立した国家の建設という現在の方針を支持した。

・欧州・大西洋の官僚が、非常に速く、ベラルーシにとって最重要である政治的表明や結論を行ったことは

受け入れ難く、その一部は、ベラルーシの内政への干渉と同然であり、容認し難く、国際法の一般的な原則や基準と矛盾している。

・客観的、かつ感情抜きでベラルーシ情勢を解明する必要がある。

(8/21 ベラパン通信)

●ゴロフチェンコ首相、ミシュスチン露首相と電話会談(8/20)

両者は、エネルギー、産業、金融分野における貿易経済関係の協力について協議し、新型コロナウイルス対策に関し情報交換した。

(8/20 ベラパン通信)

●チハノフスカヤ氏、スクバルネリス・リトアニア首相と会談(8/20)

スクバルネリス首相は、自身の Facebook のページに「ベラルーシ大統領選挙期間においてチハノフスカヤ氏に降りかかった試練や責任について協議した。また、同氏のリトアニア生活における懸念や必要性、同氏及び家族の安全についても協議した。」と投稿した。

(8/20 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣、ウルマス・エストニア外務大臣と電話会談(8/20)

両者は、二国間、多国間における相互協力の更なる展望に関し、協議した。ウルマス外務大臣は、ベラルーシ情勢に関する EU の姿勢を通知した。

(8/20 ベラパン通信)

●EU、ベラルーシの市民社会や圧政による被害者に対する支援金、53 百万ユーロの供与を決定(8/19)

(8/19 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣、アランチャ・ラジャ・スペイン外務大臣と電話会談(8/19)

両者は、ベラルーシ大統領選挙後のベラルーシにおける状況や、今後の相互協力の展望について協議をした。両者は、外部の力による干渉抜きで、段階的に

発展していくことの重要性に関し、意見が一致した。

(8/19 ベラパン通信)

●マケイ外務大臣、メーゼンツェフ駐ベラルーシ露大使と会談(8/18)

両者は、第 7 回ベラルーシ、ロシア地方フォーラムや統合機構に関連する両国間の接触の予定について協議した。

(8/18 ベラパン通信)

経済

●2020 年上半期の赤字企業数、去年同期対比 37% 増加

(8/19 ベラパン通信)

●2020 年上半期、ベラルーシ石油製品輸出額、去年同期対比、42% 減少

(8/18 ベラパン通信)

●2020 年 1 月～7 月、産業生産額、去年同期対比、マイナス 2.5%

(8/18 ベラパン通信)

●2020 年 1 月～7 月、ベラルーシ GDP 成長率、去年同期対比、マイナス 1.6%

(8/18 ベラパン通信)

軍事・内政

●治安当局、ベラルーシカリ社、ストライキ委員会会長を拘束

(8/24 ベラパン通信)

●治安当局、移行調整評議会幹部会メンバーのディレフスキー(ミンスクトラクター工場ストライキ委員会会長)、コヴァリコヴァ(チハノフスカヤ候補代理)を拘束

(8/24 ベラパン通信)

●ミンスク市内で10万人以上が参加したとされる抗議運動「新たなベラルーシの行進」が実施される

(8/23 ベラパン通信)

●コレスニコヴァ(ババリコ陣営代表)、「新たなベラルーシの行進」において演説。

(8/23 ベラパン通信)

●フレニン国防大臣、抗議運動に関し発言

発言内容の概要は以下の通り。

・(抗議運動が掲げる白赤旗を指し)ファシストが大量殺人を組織した旗の下、神聖な場所で運動が行われるのは看過できない。これらの場所で規則や静音を破れば、警察ではなく、軍と事を構えることになる。

(8/23 ベラパン通信)

●チハノフスカヤ候補、「新たな大統領選挙が実施されても出馬するつもりはない」と表明

(8/22 ベラパン通信)

●移行調整評議会幹部会メンバーである、ズナク氏(弁護士)、ディレフスキー氏(ミンスクトラクター工場ストライキ委員会会長)、捜査委員会に呼び出され出頭

(8/21 ベラパン通信)

●チハノフスカヤ候補、リトアニアへ出国後初の記者会見し、「ベラルーシ国民は、二度と現政権を受け入れることはなく、平和的抗議運動において国民が経験した暴力を許すことも、忘れることもない。」と表明

(8/21 ベラパン通信)

●チハノフスカヤ候補、ベラルーシ企業に対しストライキを中止しないよう要請する動画メッセージを公開。

(8/21 ベラパン通信)

●捜査委員会による移行調整評議会に対する刑事訴追承認

イヴァン・ナスケヴィチ捜査委員会委員長は「検事総局は、刑法第361条3項に規定されている犯罪の容疑で、『国家権力の篡奪、または国家安全保障に危害を加えるための行動の実施に向けた、マスコミやインターネットを利用した公然の呼び掛けの事実』に関する刑事訴追を行った。」と述べた。

(8/20 ベラパン通信)

●政権移行調整評議会、第一回会議開催、幹部会メンバー選出。

以下7名の幹部会メンバーが選出された。

- 1 スヴェトラナ・アレクシエーヴィチ(ノーベル文学賞受賞者)
- 2 リリヤ・ヴラソヴァ(国際仲裁人)
- 3 セルゲイ・ディレフスキー(ミンスクトラクター工場ストライキ委員会会長)
- 4 マキシム・ズナク(弁護士)
- 5 オリガ・コヴァリコヴァ(チハノフスカヤ候補代理)
- 6 マリヤ・コレスニコヴァ(ババリコ陣営代表)
- 7 パーヴェル・ラトウシュコ(元文化大臣、元駐仏大使)

(8/19 ベラパン通信)

●政権移行調整評議会、第一回記者会見実施

(8/18 ベラパン通信)

(了)